

令和5年2月27日

令和5年2月 記者懇談会 冒頭挨拶

- 本部長の榎本です。本日もお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
  
- 前回の記者懇談会以降の主な出来事としまして、2月13日に、新しく建造された舞鶴海上保安部所属の巡視船「わかさ」が就役し、先週の金曜日、24日に舞鶴港に初めて入港致しました。「わかさ」の舞鶴入港に際しましては、多くの皆さまに取材をしていただき、また大きく報道していただきありがとうございました。
  
- 新しい「わかさ」は、主として遠方海域における不審事象や不法行為などへの対応のほか、若狭湾内に多数所在する、原子力発電所などの重要臨海施設の警戒警備等を強化するため、海上保安能力強化の一環として新たに建造された巡視船です。今後、多種多様な海上保安業務に従事することに

なりますが、特に、「わかさ」は「警備実施等強化巡視船」、通称「特警船」に指定されており、乗組員は「特別警備隊」としての高い警備対処能力を備えていることに加えて、新しい船体にはヘリ甲板や高いエンジン性能、各種最新鋭の機器などを備えており、国民からの期待、信頼に必ず応えてくれるものと期待しています。

○ 改めて舞鶴海上保安部からお知らせさせていただきますが、3月19日には、巡視船「わかさ」の就役披露式を執り行う予定にしておりますので、是非こちらにもお越しいただければ幸いです。

○ また、2月6日にトルコで大きな地震災害が発生し、現地では今もなお様々な救援活動が続いています。この地震により、お亡くなりになられた方々に対しまして、心からの哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれた方々が一日でも早く元の生活に戻られることを願っています。

○ トルコの地震に際しましては、我が国から「国際緊急援

助隊・救助チーム」が派遣され、当管区、美保航空基地に所属する機動救難士がチームの一員として派遣されました。

○ 「国際緊急援助隊・救助チーム」には、海上保安庁から、特殊救難隊や全国の機動救難士など総勢14人が派遣され、既に東京で帰国後の記者会見なども行われ報道もされているところですが、本日、八管区から派遣された美保航空基地の有本機動救難士に本部に来ていただき、先ほど現地の活動状況などについて直接報告を受けたところです。

○ 有本機動救難士は、「国際緊急援助隊・救助チーム」の派遣が決定されてからいち早く羽田空港に移動しその日のうちに第一陣として現地に向かい、精神的にも肉体的にも大変厳しい中で、10日間にも及ぶ任務を全うしていただきました。地震災害における生存者救出の可能性は災害発生後72時間と言われており、「最後の砦であるレスキュー隊員が諦めたとき要救助者の死が決定する」ことを徹底して教え込まれている隊員にとって辛く厳しい任務であったと思いますが、八管区を代表して、最後まで諦めずに全力を尽くしてく

れたことを私は誇りに思います。

○ 本日は、現地に派遣された有本機動救難士のほか、有本機動救難士が所属する美保航空基地の川島基地長、五島機動救難士に記者懇談会に参加してもらっています。トルコでの活動のほか、機動救難士の日頃の業務についてもこの機会に皆さまに深く知っていただければ幸いです。

○ このほか、本日は、発表項目として、「来年度の海上保安官採用試験等」について、業務説明として、「海しるについて」の説明をさせていただきます。「採用試験」にかかる内容については既に広報させていただいているところですが、優秀な人財の確保は当管区の重要課題でもあるところ、本年におきましても募集日程のお知らせなどについてご協力をいただけると幸いです。また、「海しる」についてですが、皆さんの中で「海しる」に実際にアクセスされた方、或いは取材などで利用された方はいらっしゃいますでしょうか。「海しる」は、海のありとあらゆる情報が簡単に閲覧でき、また二次利用できる大変有効なツールですが、未だその

利用者は限られていると思われまますので、是非この機会にその有効性を確認していただき、皆さまの取材活動でも活用いただくと共に、「海する」の利用促進にもご協力いただければ幸いです。

○ 私からは以上です。本日もよろしく申し上げます。